

第3回 瀬戸市教育振興基本計画検討会の結果

開催日時	令和8年9月8日（火）午前10時～午前11時20分	
場所	瀬戸市役所 東庁舎4階 大会議室	
出席者	委員	伊澤委員長、岡島副委員長、柳田委員、此下委員、加藤(弓)委員、下方委員、福岡委員、野中委員、井上委員、加藤(絹)、八鳥委員
	事務局	大岩部長 【教育政策課】 荻原課長、中川主幹兼管理指導主事、國松専門員兼指導主事、松浦課長補佐、峯藤主任
	関係課	【学校教育課】 伊藤主幹兼管理指導主事 【図書館】 幸村専門員 【コミュニティ推進課】 横井課長 【スポーツ課】 川合課長補佐
	傍聴者	なし

【事務局から報告】

- ・第2回会議録の配布
ホームページ等で公開。

1 議事

検討事項

○瀬戸市教育振興基本計画2031（案）について・・・資料1、資料2

【事務局から説明】

- ・資料2は前回の主な意見とその対応を記載している。
- ・資料1をもとに、前回の意見や子どもからの意見聴取結果を踏まえた主な変更点を説明する。
- ・6ページ、次期瀬戸市将来計画の2040年に実現したい瀬戸のまちの姿が「混ざって生まれる。化学変化がめぐるまち」に決定した。関連する要素と整合を図り計画を策定する。
- ・7ページ、児童生徒数の推移について、国や愛知県との比較表を追加した。0歳時点から小学校の入学までに100人～200人の増加があるものの、2016年と2025年を比較すると国や県よりも減っている実態がある。
- ・10ページ、特別な支援が必要な児童生徒数の推移を掲載した。年々増加傾向にあ

る。

- ・ 12～14 ページ、確かな学力の育成について、学力調査の正答率を公表してはどうかとの意見があるが、学力調査の正答率と相関関係があると言われている質問項目に基づいて取組状況を評価・点検することで、確かな学力の育成についても点検・評価していきたいと考えている。点数の公表や評価のあり方について意見を伺いたい。また、学校の授業時間以外での学習時間は、全国と比較して短い傾向にある。
- ・ 16・53～55 ページ、約 880 名の児童生徒からの意見聴取結果及び 4 つの質問項目の分析結果を掲載・反映した。
- ・ 24 ページ、取組③として「主体的な学習習慣の定着」を追加した。
- ・ 41・42 ページ、第 2 回検討会における読書に関する意見を踏まえ、9 月にリニューアルオープンした図書館の指針や地域図書館・情報ライブラリーの取組を追加した。

【委員長】

- ・ 確かな学力とは単にテストの点数が高い低いということではなく、広い意味を持っていますが、学力の指標については関心が高く尋ねられることが多いようです。
- ・ 私自身は経済学者ですが、教育の経済学という分野があり、人材を育てる教育に、いかに効率的な資源配分をするにはどうしたらよいかという研究が進んでいます。
- ・ 全国学力テストは、単に点数の競争をしているのではなく、同時に実施する子ども状況調査と学力の間にどのような関係があるのだろうかという相関が大事な論点になります。
- ・ 12 ページに書いてあるように、朝ごはんをちゃんと食べている子や自己肯定感がある、主体的に取り組む実感を持っている子が学力に結びついていること、家庭の蔵書数と学力に強い相関があることなどが言われています。
- ・ 教育の経済学では、学力に家庭や地域の環境が大きく作用すると言われており、学校要因はそれほど大きくないとの実証結果も出ています。また、学校間の差はそれほど大きくないと言われています。
- ・ 点数が一人歩きしないよう、背景にある要因も含めてどのように示していくか、市民に見える形でどう公開していくかについて、皆様のご意見をいただきたいと思います。

【委員】

- ・ 「読み聞かせ」についてですが、40 ページにボランティアの記載があります。NPO ブックスタートの研究レポートでも一方的に読んで聞かせるというより双方のやり取りであることから「読み合い」という言葉が使われることもあります。市のホームページや計画での表現をご検討ください。
- ・ 「支援」についてですが、幼保小連携での支援や合理的配慮・日本語指導が必要な子どもへの支援について、裏方として支援するだけでなく、コミュニティスケー

ルのように担当課が連携を指導・促進する方が現実合っているのではないかと思います。

- ・また、特定の対象だけに「支援」という言葉を使うと、それが例外的な取組である印象を受けたり、子どもたちを分けることが当たり前と考える市民を生み出さないか心配です。今後の本計画での表現をご検討ください。
- ・情報発信について、「アイ・メッセージ（I Message）」の観点をお話しします。「君と一緒によかった」といった私を主語にしたメッセージの姿勢が、行政の情報発信や評価の姿勢から市民に伝わると良いと思っています。

【委員】

- ・先日リニューアルされた図書館に行きましたが、圧倒的に高齢の方が多く、子どもの数があまり変わっていない印象を受けました。読書を進めようとするにあたり、子どもたちが本を読む機会が減っていく気がしますので、もう少し変えていけないといけないのではないかと思います。

【委員長】

- ・図書館に行かれたのは何曜日の何時頃でしょうか。

【委員】

- ・先週の土曜日の昼間です。学校が休みの日ですが、子どもの姿はあまり見られませんでした。

【委員】

- ・12ページの件は非常に慎重になる案件だと思います。市民や保護者にとって「これだけ教育費を投じているのだから学力がどうなったか知りたい」という感情は分かりますが、毎年数値で評価し公開することで一喜一憂することになると思います。
- ・下がった時など、学校や学年、理由を探すことに注力してしまい、瀬戸で学んでよかったという子どもを増やすという教育理念に沿わないと思います。
- ・正答率を強く打ち出すことで優越感や劣等感を助長するようなことはしない方がよいのではないかと思います。

【委員】

- ・図書館の件ですが、私も伺いました。開館前に男の子3人が並んでいてカードの更新に来ていました。図書館の敷地から出てきた粘土で作った茶碗の話をしたら「どこでも粘土が取れるんだね」「小学校で粘土工作をしたけど、どこでもやっているとと思ったら瀬戸独自だったんだ」と気づいていました。図書館にまた来たいと言っていました。
- ・図書館は1年半閉館していたのでもう少し様子を見てほしいです。
- ・瀬戸の図書館は、本館と情報ライブラリー、地域図書館の3つで図書館機能を持たせるといふ全国的にも珍しい取組を行っており、期待されています。

【委員】

- ・SNSが魅力的で本を読むのに時間がかかるため、子どもに本を読むことを訴求することはもちろんですが、アクティビティみたいな工夫があるといいなと思いま

した。

- ・ 12 ページの学力については、個人的にはしっかり示してもいいのかなと思います
が、PTA の立場としては慎重にと思います。
- ・ 朝食を毎日食えることだけが成績に関係するのではなく、様々な要因が複雑に絡
み合っているものであり、「相関関係はあるが因果関係ではない」という注記を
入れてほしいです。
- ・ 数値だけに振り回されずにきちんと向き合うことや、こういった傾向がみられる
のでご参考くださいというようなメッセージを入れたうえで示すとよいのではと
思います。

【委員長】

- ・ 相関関係は因果関係ではないという点は非常に大事です。
- ・ 朝食を毎日食えるから正答率が高くなるのではなく、家庭の規則正しい生活習慣
などといった第三の要因が存在し、朝食の状況を見ることで、第三の要因がどう
なっているのか見ることができます。

【委員】

- ・ 31 ページの「誰一人取り残されない教育の推進」に、瀬戸市では医療的ケア児等
支援協議会が定期的開催され、小中学校や特別支援学校における医療的ケア体
制が整えられています。
- ・ さくらんぼ学園に看護ステーションが設置されており、全児童生徒の約 22%が医
療的ケアを受けているほか、小中学校で医療的ケアが必要な児童生徒へ本校の看
護師が派遣されるシステムが作られています。安全安心な学習環境が整えられて
いる実態を市民の方にも知っていただきたいです。
- ・ 医療的ケア児支援法の改正を踏まえ、医療・教育・福祉の連携強化が求められて
いますので記載が必要かと思います。

【委員】

- ・ 12 ページの件は、学校現場でも保護者から他校とのレベルの違いをよく聞かれま
す。数字は影響力が強いため、意図しない方向へ助長する危険性も判断材料にし
ていただきたいです。
- ・ タブレットに関する子どもたちの意見でネガティブなものが目立つため、もしポ
ジティブな意見があれば加えていただけたらと思います。

【委員】

- ・ 図書館について、地域図書館を利用している子どもが多い印象があります。家に
本があると子どもは手に取りますので、家庭に本がある環境が大事だと感じます。
- ・ 本計画について、子どもたちからの声がたくさん反映されているので、振り仮名
を振ったり分かりやすくして、子ども自身が読める・意見が反映されていると実
感できると良いと感じました。

【委員】

- ・ 12 ページについて、テストの点数は保護者として知りたい気持ちもありますが、
リスクを聞くと公表する必要はないのかなと思いました。

- ・項目の中の「学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合」について、学校生活が楽しいのか勉強が楽しいのか等いろいろ含まれていると思います。「授業が楽しい」「学ぶことが楽しい」「知的好奇心が育まれているか」といった学びの楽しさを測る指標も入れると、最終的に学習意欲であったり確かな学力につながると思いました。

【副委員長】

- ・7 ページの人口減少について、瀬戸市の児童数が減っている現状をなんとかして増やしたいという意図があるのかなと思ったうえで、6 ページの「混ざって生まれる」という言葉に関連して、子どもたちが学校を超えて街の中を動き回る姿をイメージしました。
- ・13 ページに学校の授業以外での学習時間がありますが、街中に様々な仕掛けをつくることで、学習時間は増えるのではないかと思います。街の中に子どもが「次にあそこへ行ってみよう」と思える探究的な学びや知的好奇心をくすぐる仕掛けを作っていく取組が必要だと感じています。
- ・また、子どもや市民に計画を読んでもらう工夫として、余白スペースに瀬戸のまちや図書館、子どもたちの活動風景などの写真をたくさん掲載いただきたいと思います。

【委員長】

- ・瀬戸市と近隣 6 大学で取り組んでいる「大学コンソーシアムせと」は、通常、県や政令指定都市レベルで行われている取組です。
- ・大学コンソーシアムの事業として、大学が市民向けにカレッジ講座を行っていますが、子ども向けの講座を増やしましょうと心がけています。子どもの好奇心をくすぐる企画がたくさんあり、募集をするとあっという間に埋まります。
- ・幼少から大学までの機関が共同して様々な企画を生み出せることは、瀬戸市の重要な資産であると思います。

【委員】

- ・8 ページの人口推移表について、0 歳から入学時まで約 200 人増えているという良い点があるため、グラフ化するなど強調できる表示にまとめると見やすいと思います。
- ・10 ページの特別支援が必要な児童生徒数の推移で、2018～2020 年のデータがない理由（県の調査から市の独自調査への移行期など）を注記に丁寧に記載してほしいです。
- ・42 ページの地域図書館について、開設年月日や所在学校名、蔵書数などを一覧表にしてアピールできるようにすると良いと思います。

【委員長】

- ・12 ページの学力調査の正答率の公表については、関心が高いものの、数字が一人歩きすることのないよう慎重に扱うべきという方向で皆様のご意見をまとめさせていただきます。

○パブリックコメントの実施について・・・資料 3

【事務局から説明】

- ・パブリックコメント手続き要項に基づき、意見募集を実施する。
- ・広報せと 10 月号への掲載や将来計画との同時 PR を行い、子どもや多くの市民から意見が得られるよう実施する。
- ・いただいた意見は第 4 回検討会にて報告する。

【副委員長】

- ・前回のパブリックコメントは 5 件 11 項目だったのですが、今回はより多くの意見が集まるよう、広報等で大きく PR していただきたいです。

2 その他

- ・次回検討会の日程について
日時：令和 9 年 1 月 2 0 日（水）午後 2 時 0 0 分～
場所：瀬戸市役所 4 階 庁議室